

平成29年12月4日（月） 全校朝会 校長講話

先月25日、俳優の吉永小百合さんが訪れ、都路小・中学校の児童生徒と交流しました。伝統を受け継ぎ、未来を語る皆さんの姿に、吉永さんは、「困難なことがたくさんあると思うけれど、みんなで励まし合ってほしい」と語りかけました。東日本大震災の後、吉永さんは福島県の被災地を度々訪れ、県民を励ましてくださっています。また、広島・長崎への原爆投下や福島の原発事故をめぐる詩の朗読を続けています。

吉永さんとの交流会では、都路中の生徒を代表して、武田隼君と吉田陽平君が「未来へのメッセージ」というテーマで意見を述べました。武田君は長崎派遣の経験から、「原発事故という一つの出来事が福島を傷付け、一発の原子爆弾が長崎の人たちのすべてを奪った。核の脅威は、私たち中学生にも無関係ではない。悲劇を繰り返さないために何ができるか考えたい」と、吉永さんの前で決意を述べました。

そのあと、吉永さんは、「この6年間、辛い経験をされたと思います。でも、今日皆さんが元気に、ここにいてくださることがとても素晴らしいことです」と語りかけてくださいました。さらに吉永さんは、「私も詩に出会って、福島のことをたくさん知るようになりました」と述べ、震災を経験した福島の子どもたちがつくった詩を朗読してくださいました。吉永さんの詩の朗読を聞いた吉田陽平君は、「ふるさとの福島に自分たちも育てられていると実感した」と感想を述べていました。私たちがこうして充実した学校生活を送ることができるのも、吉永さんをはじめ、都路中学校に寄せる多くの方々の熱い思いとご支援のおかげです。とりわけ震災以降、私たちがいただいた多くの愛情やご支援を力に変えて、地域やこれからの社会に返していくことが大切です。

吉田陽平君は、未来へのメッセージの中で、「生徒会活動や部活動などで、地域に勇気や希望を与えることが、私たち中学生の地域への貢献だ」と吉永さんの前で述べました。そこで皆さんに質問です。例えば、「部活『は』すごいね」と、「部活『も』すごいね」では、どんな違いがありますか。

私は、「部活『は』すごいね」で終わってしまう都中生よりも、「部活『も』すごいね」と言われる都中生を一人でも多く育てたい。なぜならば、「部活『は』すごいね」よりも、「部活『も』すごいね」と言われる都中生こそが、都路の未来、福島の未来、そして日本の未来を創り出すことができると信じているからです。

人は未来を見出すことで勇気や希望を抱きます。中学生として地域や社会にどんな貢献ができるのか、学年や生徒会活動、部活動においてできることをこれからは考えてみてください。